

総務文教常任委員会 資料

令和7年9月9日

政策企画部

【大本毘沙門荘について】

所在地：亀岡市千歳町毘沙門向畑33番地

延床面積：586.24㎡

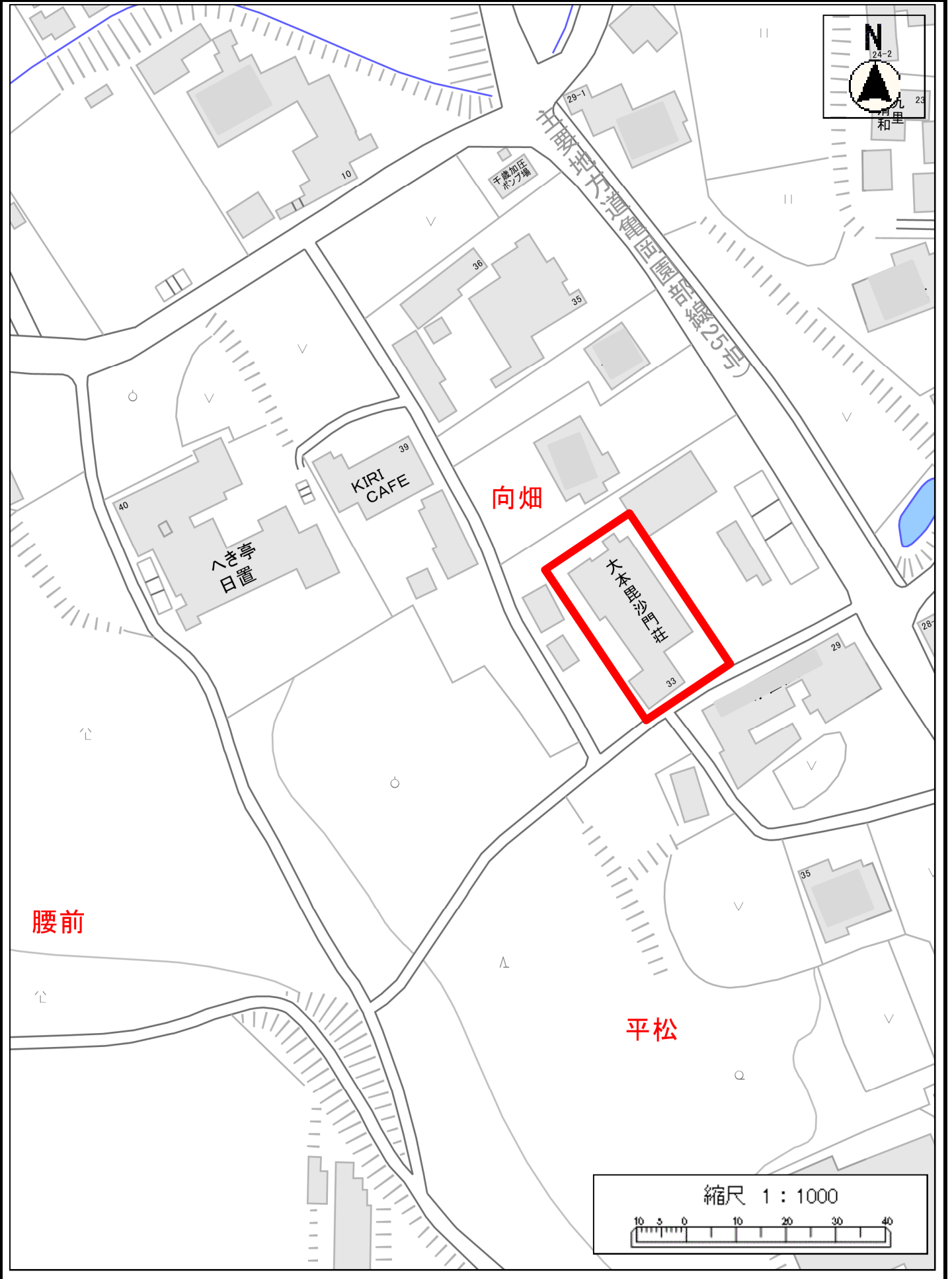
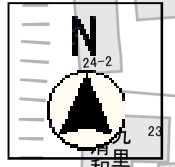
敷地面積：2,400㎡

外 観



内 観





主幹道(大野郷区園部線25号)

向畑

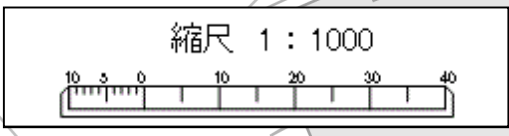
平松

腰前

大木組合配柱

KIRI CAFE

日置亭



市有地境界確定調査測量等業務委託

亀岡市余部町谷川尻 他地内

中川原

風ノ口

真瀬場

谷川尻

岩ヶ谷

- 【令和6年度 実施内容】
事業費 ¥1,478,000
- 資料調査(公簿、地図、図面)
 - 事前調査(境界標識、地形、基準点)
 - 筆界調査(現地と資料の照合)
 - 立会業務
 - ・現況平面測量

- 【令和7年度 実施予定】
事業費 ¥2,566,300
- 立会業務
 - ・地権者立会
 - ・境界測量(引照点測量)
 - ・境界確定図作成

業務実施場所

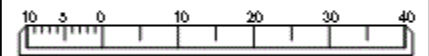
想定境界

N



測量工事
53

縮尺 1:1000



令和7年9月9日

総務文教常任委員会

【 提出資料 】

政策企画部 情報政策課

亀岡市情報化推進計画（R3～R7）

計画期間の延長について

1 背景

本市では、デジタル技術を活用した効率的・効果的な行政運営を目指し、令和3年度から令和7年度を計画期間とする「亀岡市情報化推進計画」を策定し、情報化施策を計画的に推進している。

この計画は、国の「自治体DX推進計画」や京都府の「スマート社会推進計画」と整合性を持たせた、本市のDX推進において重要な指針となるもので、計画期間が今年度末までとなっているため、次期計画の策定に向け検討を行っている。

2 国・府の状況

- ① 自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画（総務省）
計画対象期間 令和3年1月から令和8年3月まで
令和8年度以降の計画検討を行うとされているが、現状提示なし
- ② スマート社会推進計画（京都府）
計画対象期間 令和5年から令和8年頃まで
今後も情勢の変化に応じて更新するとされているが、現状動きなし
- ③ 基幹システムの標準化
移行期限 原則令和7年度末まで
全国的に作業が遅延しており、本市も令和8年10月完了見込み

3 延長する要因

上記①・②より、国や府の計画との整合性の確保・反映が困難
上記③より、基幹システム標準化移行後の業務フローが不透明
→令和7年度では、次期計画を策定するための十分な材料が揃わず、計画に盛り込むべき中長期的なビジョンや取組目標を描くことが困難

4 延長の内容

計画期間	令和3年度～令和7年度 → 令和8年度
内 容	基本計画は変更せず、終期のみを1年延長
行動計画	従来どおり毎年の見直し・項目追加など柔軟に対応

5 延長の効果

- ・国・府の施策と整合性のとれた実効性の高い計画策定が可能
- ・基幹システム標準化後の業務フローや課題を踏まえた計画策定が可能

令和7年9月
総務文教常任委員会

【生涯学習部】

資料

- ・旧別院中学校の活用について
- ・城跡芸術展2025について

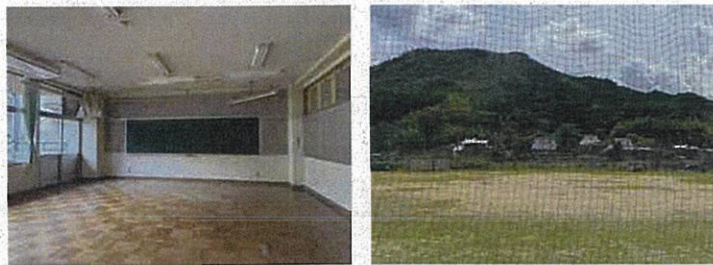
旧別院中学校校舎 利活用提案

「資源循環と創造性育成のための社会教育施設」整備調査計画案 概要

1. 計画の背景

亀岡市生涯学習部文化芸術課より、廃校となった旧別院中学校の活用を模索していると相談を受けた。実際に施設を見学したところ、教室や体育館など学校特有の空間が維持されていることに加え、里山の中という立地も魅力的であった。

亀岡市は2018年に「プラスチックごみゼロ宣言」を行い、市内の店舗でのプラスチック製レジ袋を禁止、2030年までに使い捨てプラスチックごみゼロを目指すなど先進的な取り組みを行ってきた実績がある。2024年8月に開設された環境プロモーション施設「Circular Kameoka Lab」に旧別院中学校の学校用具を転用したアップサイクル家具も導入されていて、次の展開として旧別院中学校校舎自体の活用を視野に入れることになった。また、2026年には「全国都市緑化フェア」の開催も予定されており、これまで以上の環境施策を進める機運が醸成されつつあり、本計画もそのための一助と位置付けられる。



2. 現状の課題

課題1: 廃校となった施設の活用方法が見つからない。

2023年に閉校した亀岡市別院中学校は、学校農園での野菜栽培など周囲の自然環境を活かした教育を行ってきた。校舎には体育館や図書室、図工室などの設備が残されていて、教室からの眺めも良い。広いグラウンドがあるので社会教育施設へと転用した場合に駐車場に困る心配も少ない。

課題2: 市内から「遠い」という現実。

旧別院中学校の課題は市内からの距離である。バス以外に公共交通でのアクセスがないため、近隣在住者以外の訪問は自動車が多くなる。しかし、視点を考えると、この距離感は利点にもなる。住宅密集地に比べて資源ごみの集積も容易であり、加工の際の作業音の配慮も少なくすむ。山里の学校は、「1日だけの林間学校」のような場所として非日常の体験を行うのに適している。

課題3: 「作りたい」に応える場所がない。

「Circular Kameoka Lab」や「開かれたアトリエ」を大学院の学外演習で複数回利用した。簡単なワークショップを実施することは可能だが、専用の加工機材がないため、本格的な造形ワークショップの実施には適していない。アップサイクルは資源循環・エシカルデザインにおける常道であり、それを体験できる施設設備を整備する意義は大きい。

3. 施設整備計画(案)

Circular Kameoka Factory 整備事業

旧別院中学校を「資源循環と創造性育成のための社会教育施設」として再生する

施設の目的と役割:

資源循環を自分たちの手で。「作って学ぶ環境教育と交流の拠点」としての新しい社会教育施設。資源循環・資源再生を創造教育の過程に取り入れることで、住民に対し下記のような役割を果たす。

- 廃棄物の削減とリサイクル意識向上
- 創造性を育む造形活動の場
- 環境保護とアートを結びつけた新しい価値の創出
- 地域活性化への寄与(イベントやワークショップによる集客)

コンセプト:

「使い捨てない未来のための創造空間」

資源を循環させ、創造性を育むアートと学びの拠点

想定される活動や設備:

- 1) 資源再生工房
資源ごみから家具や雑貨、学校用学習教材を製作・再生するための工房施設。住民に対する相談窓口。
- 2) アップサイクル・ワークショップ
子どもから大人まで参加可能な創作活動を通じた資源循環教育の実施。
- 3) 展示スペース
再生資源を用いたアート作品や活動の成果を展示。
- 4) 地域協力イベント
市民参加型の資源回収やフリーマーケットの企画。

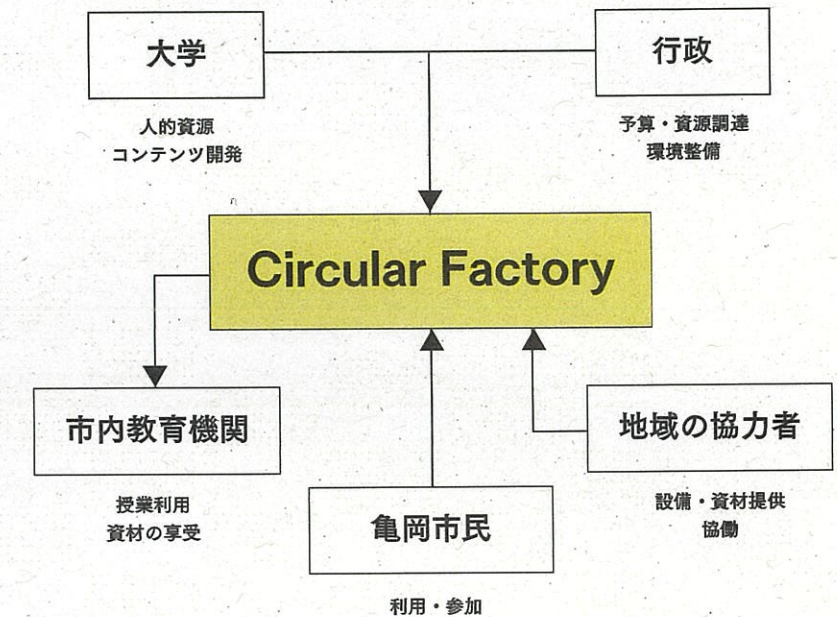


4. 京都芸術大学との域学連携

京都芸術大学では2025年度より大学院に新設される「プロジェクト科目」の授業料として、本計画についての基礎的な調査および施設利用の実験を行う予定である。具体的には旧別院中学校の施設を活用し、資源循環ワークショップや造形教育プログラムの開発を行うことに学生を投入できる。ただし、「プロジェクト科目」は集中講義型になるため、文化デザイン・芸術教育領域「芸術生活実践研究室」が中心となって、年間を通して本計画に関わることをとする。

将来的には、地域で活躍できるデザイン・アートマネジメント人材の育成場所として学生の教育研修先やキャリア形成の一環となることを期待している。

運営概念図:



5. 実現に向けた段階的な事業計画

リノベーション計画策定や持続可能な運営体制構築へと向かうためのステップ

- 2025年度 施設整備のための基礎調査
造形ワークショップの実験開発
成果報告展
- 2026年度 工房機能の試行
校舎利用の実験
造形ワークショップの運用評価
整備計画策定
- 2027年度 校舎設備改修
施設可動・事業開始

調査すべき先行事例：

• ReTuna Återbruksgalleria



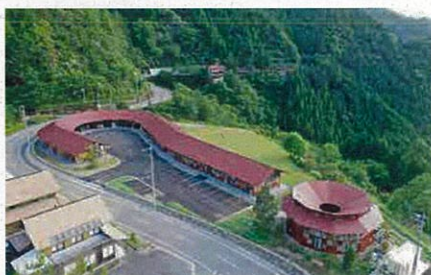
スウェーデン南部の都市エシルスターナにある世界初の100%リサイクルショッピングモール。リサイクルセンターに持ち込まれる家具や家電を修理して販売。

• ReBuilding Center JAPAN



長野県諏訪市で古材と古道具を販売する建築建材のリサイクルショップ。家屋や工場の解体現場から引き取り手のない古材を買い取り、販売している。

• 上勝ゼロウェイストセンター



2020年4月に旧ゴミステーションをリニューアルして開設された宿泊機能をもつ上勝町ゼロ・ウェイストセンター。町民だけでなく、町外から訪れた人たちがゼロ・ウェイストの理念を学び、世界に広げていける施設と位置付けられている。

• ナカダイ モノ・ファクトリー



リサイクル率99%を実現する廃棄物処分業者である株式会社ナカダイのグループ会社として、資源循環コンサルティングや回収拠点リマーケティングセンター運営、企画商品の企画・制作、ワークショップ等を行っている。

• FabLab



「ほぼあらゆるもの」をつくることを目標とした、3Dプリンタやカッティングマシンなど多様な工作機械を備えた工房施設ネットワーク。

旧別院中学校跡地活用検討経過

時期	内容	場所	参加者（予定）
5月1日	廃校跡地の活用リサーチ 業務委託契約締結		
5月16日	キックオフミーティング	サーキュラーか めおカラボ	学生、教員（約20人）
5月30日	旧別院中学校周辺のリサ ーチ・フィールドワーク	旧別院中学校	東西別院各自治会長 地元住民（2人） 学生、教員（約20人）
7月4日	旧別院中学校周辺のリサ ーチ・フィールドワーク 京都芸術大学大学院生に よる企画プレゼンテーシ ョン	旧別院中学校 甘露寺 極楽寺	地元住民（7人） 学生、教員（約20人）
9月27日 （～28日）	空き校舎の未来を考える 星空交流会（学生は別院中 学校でキャンプ泊）	旧別院中学校 校庭	地元住民 学生、教員（約10人） 議員
10月19日	ボンボンマルシェ vol.12 @城跡芸術展2025出展(WS)	丹波亀山城跡 中庭	学生、教員
11月29日	成果報告会	旧別院中学校 （予定）	東西別院各自治会長 地元住民 学生、教員（約20人） 議員、市長、大学関係者
12月1日～5 日（予定）	リサーチ結果展示	サーキュラーか めおカラボ	



旧別院中学校

空き校舎のみらいを考える星空交流会

9月27日(土)

19:00~21:00

場所:

旧別院中学校校庭

- ・どなたでも参加可能
- ・申込不要/参加無料
- ・雨天の場合、校舎内

簡単なお食事をご用意してお待ちしております。



亀岡市は、魅力あるまちづくりへの協力などで協定を締結している京都芸術大学と連携して、これからの時代にふさわしい旧別院中学校の活用策の検討をスタートしました。

現在、考えられている一つのテーマに「資源循環と創造性教育」があります。資源循環を単なる環境活動としてだけでなく、創造的な活動と結びつけることで、様々な人の「つくる」を応援できる、地域に開かれた新しい社会教育施設として活用する可能性を模索しています。

旧別院中学校の活用計画についてはまだ始まったばかりです。

「こんな場所になったら楽しそう」や「こんな活動ができたら良いな」など、空き校舎の活用について、地域の皆さまと一緒に考え、意見を交わすための交流会を開きます。ぜひお気軽にご参加ください。

- お話ししたいこと
- ・どんなプロジェクト?
 - ・資源循環の拠点とは?
 - ・各地の廃校はどう使われている?
 - ・別院中のこと、地域のこと

大学からはプロジェクトに関わっている学生約10名+教員が参加します。

KAMEOKA KIRI ART CULTIVATION
か め お か 霧 の 芸 術 祭

資料4

城跡芸術展 2025

京都市
亀岡市

丹波亀山城跡

(大本本部)
京都市亀岡市荒塚町内丸1番地

2025
10
11 (土)
↓
26 (日)

午前10時
午後4時30分
観覧無料 *会期中無休

特設HP



Instagram



主催 | かもおか霧の芸術祭実行委員会、亀岡市
協力 | 宗教学人大本、亀岡祭山鈴連合会



かもおか霧の芸術祭
Kameoka KIRI Art Cultivation

SHIROATO ART EXHIBITION 2025
城 跡 芸 術 展 2 0 2 5

城跡芸術展 2025



「城跡芸術展」は、京都府亀岡市にゆかりの深いアーティストたちが集い、絵画や彫刻、陶芸や漆造形から、音や光を使ったインスタレーションやパフォーマンスまで、幅広い作品を披露する年に一回の芸術展です。新作はもちろん、亀岡の風土や文化に根ざした作品にも出会える、ここだけの特別な機会となります。

会場は、歴史の記憶を今に伝える丹波亀山城跡。水面に映る石垣、赤松林の影、植物園に差し込む木漏れ日。その景観そのものが舞台となり、現代の表現が響き合う場をつくり出します。

さらに会期中は、トークやワークショップ、パフォーマンスやマルシェも行われ、まちを巻き込んだ村祭りのような賑わいに。芸術に詳しくなくても、ふらりと立ち寄れば、作品と人とが織りなす出会いが待っています。秋の城跡で繰り広げられる「芸術の祭り」に、ぜひご参加ください。



出展作家：

Antenna × ヤノベケンジ、MUKU ART BASE、WONG Chung Wah + FOK Ching、ZENG HUIRU、井尻杏那、大石早矢香、大矢一成、岡留 優、小松千倫、阪本 結、チェソクホ、津村侑希、でぐちみつぎ、西野康造、日置結弥、副産物産店、ベリーマキコ、松岡勇樹、南江祐生、藤川耕生、巡り堂、森 太三、安井友幸、山本和夫、吉田伊佐、渡辺信喜

会期・会場：

会期：2025年10月11日(土)～10月26日(日) (16日間)

時間：午前10時～午後4時30分

観覧料：無料

会場：丹波亀山城跡 (大本本部・みろく会館/春陽閣/花明山植物園)
〒621-0851 京都府亀岡市荒塚町内丸1番地 (JR亀岡駅 南口より徒歩10分)
※駐車場無料/大本本部駐車場をご利用ください

- 電車でのアクセス
JR京都駅から嵯峨野線(山陰本線)にて約20分 → JR亀岡駅 南口より徒歩10分
- 車でのアクセス
大本本部駐車場をご利用ください (無料)



お問い合わせ：

かめおか霧の芸術祭実行委員会

Mail: shiroatoart@gmail.com
Tel: 0771-55-9655

主催

かめおか霧の芸術祭実行委員会
亀岡市

協力

宗教法人大本
亀岡祭山鉦連合会

城跡に、この秋「芸術の祭り」がやってくる。

イベントプログラム一覧：(開催順)

本展のイベントプログラムは、すべて出展アーティスト自身が企画したものです。作品展示に加えて、トークやワークショップ、パフォーマンス、オープンアトリエなど、多彩な表現に直接ふれる機会をお楽しみください。今年はミュージアムショップも併設予定。ここでしか出会えない作品やグッズをお求めいただけます。

オープニング&クロージング

- 10月11日(土) | オープニングトーク
- 10月26日(日) | クロージングトーク

アーティストトーク

- 10月12日(日) | 森 太三「ここに仮に置いてみる」
- 10月13日(月・祝) | 日置結弥「風土を巡る記憶」
- 10月18日(土) | 安井友幸「アドベンチャーと漆」
- 10月19日(日) | Antenna × ヤノベケンジ トークセッション
『森で会いましょう』から続く、それぞれの物語と現在地
- 10月24日(金) | 松岡勇樹・森田 舞 × 亀岡高校生 クロストーク

ワークショップ

- 9月14日(日) | WONG Chung Wah + FOK Ching
「まちの石描きハンコ団～石の日ハンコワークショップ～」
- 10月12日(日) | 岡留 優「いろんな体勢で風景画を描こう」
- 10月13日(月・祝) | 大石早矢香
「My decoration～作品鑑賞ツアー & フォトフレームWS～」
- 10月18日(土) | でぐちみつぎ「響く玉砂利・Cha Cha 浜茶」
- 10月25日(土) | 大矢一成『釣り合う!』を見つける vol.2

ツアー

- 10月25日(土) | 並河杏奈「亀岡祭・城下町まち巡りツアー」
- 10月11日(土)・26日(日)
芸術展ディレクター副産物産店による展覧会ツアー

オープンアトリエ

- 11月23日(日・祝) | MUKU ART BASE (森田 舞+山本学司)
- 11月29日(土) | ベリーマキコ「ベリーの現場」

その他

- 10月18日(土)～19日(日) | 松井利夫
「湯の花温泉 すみや亀峰庵70周年記念イベント～温泉とアートプロジェクト『サイネシヨウ』展覧会～」
- 10月19日(日) | 南江祐生
「松風の鼓動 La Pulso de la Pinar-vento」
- 10月19日(日) | ポンボンマルシェ～城跡芸術展2025～
- 10月19日(日) | 霧の輪踊り

*各イベントの詳細・お申し込みは、城跡芸術祭2025のページよりご確認ください。



特設HP



Instagram



最新情報・詳細は
公式サイトまたは
SNSをご確認ください

同時開催

「ギャラリーおほもと」では、出口王仁三郎聖師の耀盤をはじめ、大本の歴代教主、教主補の書・画・陶芸等の作品を展示しています。秋の展示として、9月5日(金)～11月末の期間「歴代教主・教主補作品展」を行いますので、城跡芸術展と共にご覧ください。

時間：午前9時30分～午後4時30分 (※入館午後4時まで)

観覧料：城跡芸術展期間中、展覧会の来場者は無料

※通常入館には「大本神苑拝観券」(300円) が必要です。

会場：みろく会館2階

ギャラリーおほもと▷ https://oomoto.or.jp/wp/gallery_oomoto/



<https://kameoka-kiri.jp/shiroato-art-exhibition/>